



(1) 立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言

- すべての学生、教員、職員にとっての行動規範。
- 立教大学は、キリスト教に基づいて人格を陶冶し、人間の尊厳を自覚する教育をおこないます。
 - 立教大学は、みずからの学びと体験を他者に伝達し、他者と共有できる感性と知性をもった人間を育てます。
 - 立教大学は、あらゆるキャンパス・ハラスメントに対し、断固たる態度でこれを排除し、防止します。
- の3点で構成される。

(2) グローバル・リベラルアーツ・プログラム (GLAP)

英語による科目で構成されたグローバル・リーダー育成のための学位コース。他者を尊重し寄り添いながら世界の新たなあり方を見据え、自ら考える力と人間性を養う。1学年30名の少人数教育で、2年次秋学期から3年次春学期まで原則全員が海外の協定校に留学する。帰国後はHumanities、Citizenship、Businessの3分野から自分が興味・関心をもつ領域を選択し、専門分野の学びを深める。交換留学生と共同生活を送ることができる学生寮も完備している。

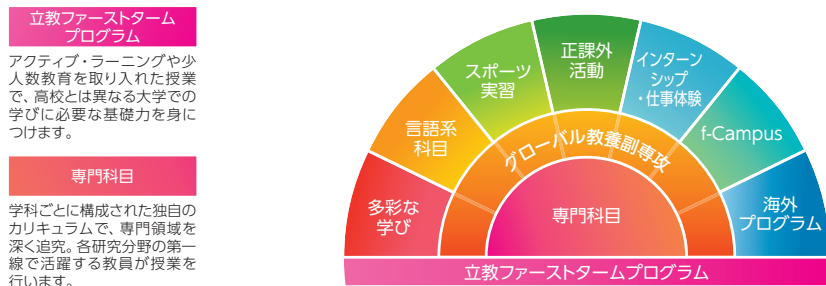
(3) グローバル教養副専攻

所属する学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って習得することで、多面的に物事を捉えて持続的に考える力を養成する全学対象のプログラム。「Arts & Science Course」「Language & Culture Course」「Discipline Course」の3つのコース・23のテーマから1テーマを選択し、指定された科目群を体系的に学ぶほか、大学が認定する海外体験を行うことが修了要件となる。修了すると、卒業時に大学から修了証が発行される。

立教大学は2023年4月にスポーツウエルネス学部を開設しましたが、2026年4月には池袋キャンパスに環境学部を新設します(設置構想中)。文理の枠を超えた多様な視点で、サステナブルな世界と地域を創造する新しい時代の環境リーダーを育成することを目指しています。

立教大学は、教員の半数を理系の教員で構成し、科学を重視した「環境」をメインテーマとする文理融合のリベラルアーツ教育を展開することです。そして立教大学独自のリーダーシップ教育を通して、対話

授業とさまざまな活動を通じ、着実に成長できる学びの体系



グローバル教養副専攻 学部の専門性に加え、グローバルかつ多面的に物事を考える力を身につけるための学部横断型の教育プログラムです。	多彩な学び 立教大学のリベラルアーツ教育の主軸となる科目。多様なテーマと向き合い、分野を越えた幅広い知識と教養を養います。	言語系科目 英語と初習言語を必修とし、さまざまな人と交流できる言語運用能力の習得を目指すとともに、異文化理解を深めます。	スポーツ実習 実技や講義で心身の成長を促します。講義ではスポーツがもつ文化的側面や、健康維持に関する知識も学びます。
正課外活動 サークルやボランティアといった課外活動をはじめ、海外体験、キャリア支援プログラムなどをおして広い視野を育みます。	インターンシップ・仕事体験 企業や官公庁などで就業体験を行います。実習をとおして自ら気づき、考える力が養われ、キャリア形成に役立ちます。	f-Campus 協定を結んだ他大学のキャンパスで、多様な科目を履修できます。修得した単位を卒業要件単位に組み入れることも可能です。	海外プログラム 大学間または学部間協定による派遣留学や、短期語学研修など、目的・期間に応じた多様なプログラムで見識を広げます。

る一方、プレゼンテーションスキルやライティングスキル、データ活用といった「学びの技法」の修得にも注力します。150周年を機にそれをさらに進化させようというのが「RIKKYO Learning Style 2.0」というわけです。

さらに「グローバル教養副専攻」⁽³⁾として、所属学科で学ぶ分野以外の幅広い知見に触れる3コース・23のテーマを設置しています。

多様な経験値を結集させる独自のキャリアデザイン

RIKKYO Learning Styleでは、形成期、完成期でのプログラムも多彩です。「グローバル・リーダーシップ・プログラム(立教GLP)」は、企業や団体から提示された課題について、論理的かつ実践的な解決策の策定に挑みます。個別事例における課題解決能力を磨きながら、グループワークでのリーダー経験や、下級生のサポートなどを通じてリーダーシップを養います。

「**2026年、文理融合型の「環境学部」を創設**」

立教大学は2023年4月にスポーツウエルネス学部を開設しましたが、2026年4月には池袋キャンパスに環境学部を新設します(設置構想中)。文理の枠を超えた多様な視点で、サステナブルな世界と地域を創造する新しい時代の環境リーダーを育成することを目指しています。

立教大学は2021年に立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言を公表しました。個人の人格と尊厳を大切にすることを定めたもので、この宣言を立教大学における、あらゆる活動の根源的原理としています。学生は、池袋と新座の美しいキャンパスの中で4年間を過ごすことができ、図書館をはじめ各施設も充実しており、その空間の中で育てられるのは立教ならではの存在です。私たちは、一人ひとりの学生の存在を大切にしたいと思っています。個々の学生にカスタマイズした丁寧なティーメイトの教育をしていきますので、自由の学府で自由に学んでいただきたい」と受験生にエールを送っています。



にじはられた
西原 廉太 総長
1987年京都大学工学部金属工学科卒業。95年立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士課程前期課程修了。2013年関西学院大学大学院神学研究科(博士)。専門は神学、アングリカニズム。立教大学教授、2021年より現職。キリスト教学校教育同盟理事長。日本私立大学連盟常務理事。

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 入学センター TEL 03-3985-2660 <https://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学

建学の理念を再確認し、オンリーワンの大学を目指す

アメリカ聖公会の宣教師ウィリアムズ主教が1874年、キリスト教精神に基づく人間教育を日本で普及させようと「立教学校」を築地に開設してから今年で150周年。これを機に立教大学では「普遍的なる真理を探究し、世界、社会、隣人とながらるために、Global Liberal Arts & Scienceを究める大学へ」をキャッチフレーズに「未来構想」を発表しました。

ウィリアムズ主教が日本の若者に伝えようとしたのは、アメリカ聖公会の源流にあるイギリス国教会を背景に発展してきた英国型のリベラルアーツです。12世紀頃からオックスフォード大学やケンブリッジ大学で脈々と受け継がれてきた伝統的な教育スタイルです。

西原廉太総長は、「教育理念である『ラテン語の『PRO DEO ET PATRIA』は、直訳すると「神と国のために」ですが、私たちは『普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣

人のために」と解釈しています。これこそがリベラルアーツを重んじる本学の精神であり、150周年を機にその建学の理念を再確認しつつ、時間と空間を超えて人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを大切にしながら、教える者と学ぶ者、それを助ける者が真に誇れる大学へと不断に変革していきます。そして、日本で、さらには世界で輝くオンリーワンの大学となることを目標とします」と語ります。

具体的には、Global Liberal Arts & Science教育のフラッグシップとしての「グローバル・リベラルアーツ・プログラム」(GLAP)⁽²⁾を強化すること、「環境学部」を新設する計画をメインに、「RIKKYO Learning Style 2.0」を展開します。さらに立教大学の国際化を推進するとともに、一線級かつ最先端の立教大学の研究力強化、大学院教育の充実、正課外教育・正課外活動の充実、立教学院一貫連携教育と聖公会関係学校連携強化などを目指します。

真のリベラルアーツで専門性に立つ教養人育成

リベラルアーツは一般に教養と訳されていますが、立教大学が150年にわたって取り組んできたリベラルアーツの本質は「専門性に立つ教養人の育成」です。専門性という確かな軸を持った上で、さまざまな学びの分野に触れ、広く深い視野と多面的かつ柔軟なものの見方を養うことを重視しています。

その教育を体現するのが「全学共通科目」です。また2016年度にスタートしたのが「RIKKYO Learning Style」で、大学での4年間を導入期、形成期、完成期の3段階に分類し、とりわけ入学後約半年間の導入期を重視。「立教ファーストタームプログラム」として体系化し、「学びの精神」というカテゴリーを設けて学びの意味・意義について理解を深め

PRO DEO ET PATRIAを教育理念に、英国型リベラルアーツ教育を実践し、「専門性に立つ教養人」を生み育てる

を重視しています。「あらゆる縛りから解放たれて自由になるための技法がリベラルアーツであり、本学では『人格の陶冶』に重きを置いています。西洋の大学は修道院がルートになっており、共に祈る、共に学ぶ、共に生活するという3つの勤めがあり、オックスフォード大学やケンブリッジ大学にもその伝統が継続されています。本学の池袋キャンパスにもそれが生かされています。現在の2号館、3号館はもともと寄宿舎だったのです。本学のキャンパスは美しいと言われるが、それは確固たるリベラルアーツの思想に基づいて設計された姿だからです」(西原総長)

